

令和元年度 新潟市食育推進会議

日 時：令和元年7月22日（月）午後2時～4時

会 場：新潟市食育・花育センター2階 講座室A

司 会	<p>ただいまより、令和元年度新潟市食育推進会議を開催いたします。</p> <p>本日、司会を務めさせていただきます、新潟市食と花の推進課課長補佐の岸本です。よろしくお願いいたします。</p> <p>本日の会議は午後4時くらいを終了のめどとして進めたいと思いますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>開催に当たりまして、食と花の推進課長の松尾より、皆様にごあいさつ申し上げます。</p>
松尾課長	<p>ご紹介いただきました、食と花の推進課の松尾です。本日はお忙しいところ、また、梅雨の中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>梅雨ということですが、なかなかすっきりしない、雨が降るのか降らないのかみたいな天気が続いておりまして、全国で水害が多発しているようなことで、そこまで降られても何ですが、雨があまり降らないと農家が困ってしまうということで、そこそこ降っていただきたいというところです。</p> <p>さて、今年の3月のことになるのですがけれども、全国の都道府県、政令指定都市の食育担当者の会議で東京に行きました。農林水産省から、全国の市町村における食育推進計画の策定状況について報告がありまして、全国1,741市町村の内、平成30年度において計画を策定しているのは、前年度から96か所増えて1,476市町村、率にすると84.8パーセントだったそうです。しかし、一方で、恐らく、各市町村、第2期の計画になると思いますけれども、計画期間が終わったにもかかわらず、次の計画を策定更新しなかった市町村が、この3年間で全国に11市町村あったそうです。小規模な自治体で担当する職員がないなどの事情もあるのだろうとは思いますが、食育推進計画を作る意味あるいは目的、必要性がなかなか見えなくなっているのではないかと感じたところです。同じく、その3月の会議の中では、国の第3次食育推進計画における数値目標の進捗状況の報告があったのですが、後ほど我々からご報告する本市の数値目標とほぼ同じで、ほとんどの指標が、特によくなっているわけではないのだけれども、だからといって悪くなっているわけでもな</p>

	<p>いと。国としても評価に困っているな、というのが私の印象、感想でした。</p> <p>また、昨日は、皆様ご承知のとおり、参議院議員選挙があったわけですが、食育の推進をうたっていた政党は1党だけでした。食育が大切だということはだれもが認めるところだとは思うのですけれども、その成果や効果がなかなか見えにくいというところが、国や全国の市町村に何となく蔓延してきているのかなと感じているところです。</p> <p>本日の議題で、本市の次の第4次食育推進計画についてお話をさせていただきますけれども、そのような時代背景だからこそ、新潟市の食育にとってこれから何が大切なのか、何を目指していくのかということについて、本日、皆様から忌憚のない積極的なご意見を賜ればと思っております。今日は少し長丁場ですが、後段のほう、皆様から意見をいただく時間もなるべく多く取らせていただいておりますので、ぜひ、今日はよろしくお願ひしたいと思ひます。</p>
司 会	<p>議事に入る前に、3点確認させていただきます。まず1点目ですが、配付資料の確認です。今日、机の上に置かせていただいたものとして、座席表が1枚。資料7、令和2年度食育推進事業についてというカラー刷りのものが1枚。資料9、第4次新潟市食育推進計画の策定について（案）が1枚。資料9—別紙ということで、第4次新潟市食育推進計画の策定スケジュール（案）があります。あと、パンフレットとして、第3次新潟市食育推進計画概要版が、本日、机の上に配布させていただいた資料になります。</p> <p>その他のものについては事前配付させていただいておりますが、次第の下のように配付資料一覧があります。皆さんの中で不足の資料はありませんでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>2点目です。会議の録音についてです。当会議は公開となっております。後日、ホームページ等で公開する議事録の作成の都合上、会議を録音させていただきますことをご承知おきください。</p> <p>3点目です。ご発言いただく際のマイクの使い方です。このマイクが、村山議長のところにももう一つありますが、二つ一度にオンにしまうと音がハウリングして雑音が入ったりしますので、申し訳ありませんが、発言が終わり次第、1回オフに、こちらを下に下げるとオフ、上に上げるとオンなのですが、その使い方を少しご配慮いただきたいと思ひます。</p> <p>続いて、本日出席の委員の皆様のご紹介をさせていただきます。時間の都合上、配付させていただいている名簿と座席表にてご確認いただくことでご紹介に代えさせていただきます。なお、学校の代表者である新潟市立岡方第一小学校の水澤玲子委員については、前任の新潟市立鎧郷小学校の吉田富貴子委員が</p>

	平成 30 年度末にご退職なさったことに伴いまして、後任としてお願いしました。水澤委員、よろしく申し上げます。
水澤委員	よろしく申し上げます。
司 会	<p>また、座席表左上に記載してある 6 名の委員の方々と、急遽ですけれども、阿部委員については、用務のために欠席の連絡をいただいていることをご報告させていただきます。</p> <p>続いて、事務局サイドのご紹介をさせていただきます。本日、事務局である食と花の推進課のほか、食育・花育センター及び関係課として保健所健康増進課、保健所食の安全推進課、教育委員会保健給食課、保育課、農林政策課。以上が同席していることを申し添えさせていただきます。</p> <p>それでは、これより次第により、議事に移りたいと思います。ここからは、村山会長より議事を進行していただきたいと思います。村山会長、よろしく申し上げます。</p>
会 長	<p>それでは、始めたいと思います。本日のメインが議事の 4 番目、次期の計画に関してさまざまなご意見をいただきたいということですので、前半、質疑等を少しまとめて行っていただくことがあるかと思います。まず、進行の方法として、議題 1 と 2 は続けて説明いただきまして、終わった時点で質問をお受けしたいと思います。次に、議題 3、次年度の事業について事務局からお願いして、その後質問を受けます。議題 4 の、今申し上げた次期の策定の説明が終わったところで総合的な意見交換を行いたいと思いますので、よろしく申し上げます。</p> <p>それでは、(1) 第 3 次新潟市食育推進計画の進捗状況および平成 30 年度活動状況報告について、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>食と花の推進課の黒崎です。よろしく申し上げます。</p> <p>(1) 第 3 次新潟市食育推進計画の進捗状況および平成 30 年度活動状況報告については、資料 1 から 4 の 4 種類を基に説明させていただきます。</p> <p>まず、資料 1 をご覧ください。第 3 次新潟市食育推進計画では、平成 29 年から 33 年までの 5 年間の計画として、平成 29 年度より開始しました。第 3 次計画では、より市民の視点を大切に整理を行い、えらぶ、つくる、たべる、育てるという四つのテーマと、それに付随する目標を掲げて施策を展開することとしています。</p> <p>本日は、平成 29 年度と平成 30 年度実績値を比較した結果について説明します。実績値の算出方法については、市民 3,000 人を対象にして実施したアンケート調査ほかで、こちらの表中の出展・調査時期のとおりになります。数値指標は全部で 18 指標 22 項目からなります。前年度より改善していた指標は 22 項目中 12 項目、変化なしは 1 項目、前年度より悪化していた項目は 9 項目で、</p>

	<p>指標数だけで見ると、約5割が改善しています。</p> <p>改善した項目です。指標ナンバー2の健康に配慮した食生活に関する指標。指標3、地場産食材の利用に関する指標。指標5、食の安全に関する指標。指標10、拠点施設における事業実施回数。指標11、主食・主菜・副菜のそろった食事。指標12、よく噛んで食べる市民。指標14、共食の大切さ。指標15、共食の回数。指標18、食に関するボランティア数です。変化なしは指標17の農業体験学習でした。</p> <p>今回の結果を見ますと、えらぶ、たべるの視点の指標の改善が目立ちました。その中でも、平成28年度より3年連続で改善している指標が四つありまして、それは指標2、健康に配慮した食生活をしている。指標3、地場産食材を選ぶ。指標5、食の安全に関心を持っている。指標12、よく噛んで食べるでした。一方、悪化した指標の内、1ポイント以上悪化した項目は指標1、食の関心度。指標7と8の郷土料理の関係。指標16、農業体験学習でした。また、指標9、食育マスター派遣事業の実施回数については、大幅に減少しました。これは平成30年度より運用方法の一部を変更し、1団体当たりの派遣回数を最大2回から1回にしたこと。さらに、利用回数に上限を設けたため、従来2回利用していた団体が1回の利用になったこと。また、新規利用団体が伸びなかったことが理由と思われます。今年度は指標を数値の変化だけで比較しましたが、次期計画策定の際は、全体をとおしての分析、評価が必要と考えています。</p> <p>次に、資料2、3、4について説明させていただきます。資料2は、平成30年度の食育関連主要事業を示したものです。四つのテーマごとに関係課が実施した事業を主要事業としてまとめました。</p> <p>次に、資料3です。平成30年度食と花の推進課及び食育・花育センターが実施した事業と実績になります。</p> <p>次に、資料4です。こちらは平成30年度の全市の食育推進に関する事業をまとめた年次報告書で、非常に厚い冊子がお手元にあるかと思います。これは条例で年に1回、食育推進に関する事業を年次報告書としてまとめることと記載されているものですが、こちらについては全庁的に照会をかけたものをお手元にあるとおりましたものになります。資料2、3、4については、本日は詳細の説明は省略させていただきます。お時間のあるときにご確認いただければありがたいです。</p>
会 長	<p>続きまして、(2)令和元年度食育推進事業について、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>それでは、引き続き説明させていただきます。</p> <p>まず、資料5をご覧ください。令和元年度食育関連主要事業としてまとめたものです。事業内容は、食育に関する関係課が実施する事業を、えらぶ、つく</p>

る、たべる、育てるの四つのテーマ別に整理しています。昨年度は、関係課より各事業についてそれぞれ説明していただきましたが、今回は省略させていただきます。

次に、資料6をご覧ください。こちらは、当課及び食育・花育センターが実施する食育推進に関する事業です。こちらについては、少し資料を見ながら説明させていただきます。まず、当課が実施する事業の内、食育の日における普及啓発活動についてです。食育の日の取組みについては、国が実施要綱を示し、毎年6月を食育月間、毎月19日を食育の日として、食育に関する普及活動を重点的に実施することとしています。本市においては、6月、10月、3月の年3回を重点的に実施する時期として、飲食店、小売店の協力により取組みをしています。今年度は、新たな取組みを加えて実施していますので、ご紹介させていただきます。飲食店における取組みでは、表中の①の年3回の食育の日を中心に実施する食育の日特別メニューの提供のほか、②に示す食育メニューの登録・提供という考え方を加え、主食・主菜・副菜のそろったメニューについて登録していただき、通年をとおして提供していただいています。こちらは希望のあったお店に取組んでいただいております、この4月から開始したのですが、現在、3店舗程度のご協力をいただいているところです。次のページです。上のほうに飲食店の取組として写真が2枚掲載されていますけれども、写真の左は特別メニュー、右が登録メニューになります。

次に、(2)小売店の取組みです。協力いただいているスーパーマーケット等には共通の取組みをお願いしていますが、協力してくれる店舗には当課職員が出向いて、野菜の一日摂取量に関する展示コーナーの設置のほか、本物そっくりの食品サンプルを使って簡単に栄養バランスが分かるシステムを使った、私たちはSATシステムと言っておりますけれども、その取組みも始めました。実は、7月19日、つい先だってになりますけれども、リオン・ドールの2店舗のご協力ですべて初めて実施しました。体験していただいた方には好評でした。

次に、食育マスター制度についてです。マスターの登録制度は継続していますが、マスターの派遣に関しては、この4月より、今までの市民の要望に合うマスターを派遣する制度から紹介する制度として実施しています。制度変更から3か月が経過したところですが、制度の適正な活用を図ることが私どもの課題となっております。

次に、普及資材を活用した取組の内、こども食育新聞の発行についてご紹介します。子ども向け新聞の発行を開始して今年で5年目を迎えます。昨年度は食料自給率、野菜の花、旬の食材、和食、郷土料理などをテーマにして発行しましたが、今年度はじゃがいもやトマトなどの農産物についてもっと知っても

らおうと、農家に取材に行き、育て方や収穫の仕方、農家だから分かる情報などを盛り込んだものを充実させて発行しています。新聞の配布方法も学校の意見をいただきながら、今年度からはポスター形式での配布に切り替えました。

次に、わくわく教育ファームについてです。これは委員の皆様のご存じの事業ですが、今年度も教育委員会と協働で事業に取り組んでいます。また、菌ちゃんリサイクル元気野菜づくりですが、こちらも以前の会議でご紹介させていただきましたが、今年度も20園において実施しております。子どもの元気な体作りにつなげる取組みとして、継続しています。

次に、ページをめくっていただき、食育・花育センターの実施事業について説明します。料理教室の企画運営については、にいがたで生産される米、野菜、果物、魚など本市の特色ある新鮮で多様な食材を組み合わせた調理体験を通じて、にいがた流食生活を推進するため、食育、食文化、にいがた流食生活、料理方法・技術などについて、安全に楽しく学べる料理教室や、親子、家族、食文化に関心を持っている方、調理法を学びたい方など、多様な対象者のニーズにこたえる料理教室や、食育推進に関係する各団体と連携した料理教室を行うほか、貸館利用により外部団体が多様なニーズにこたえる料理教室を開催できる支援を行っています。料理教室については年間60回を予定しています。

次に、食育ミニ体験については、子どもたちを中心に気軽に参加できる体験講座として、毎週日曜日を中心に定期的に実施しています。年中行事や季節感を踏まえ、気軽に楽しく、食や食文化について学ぶことができる内容を企画しています。体験の内容は、資料に示すとおりです。写真もご覧ください。

次に、イベントでの食育の普及・啓発です。いくとぴあ食花、各施設と連携して開催する8大イベントで、主に子どもや親子を対象にした食育に関する各種体験を実施して、食育の普及・啓発を図っています。今年度、4月の春いくフェスタでは米について、5月のイベントでは新潟に伝わるぼっぼやき体験を実施しました。

次に、団体体験プログラムです。小学校、保育園向けの体験プログラムを用意し、実施しています。食育関係のプログラムは、全体で51プログラムとありますが、食育関係のプログラムは17プログラムとなっています。プログラム集については、市内の全校園に配布し周知し、実施しています。以上で資料6の説明は終わります。

また、本日、机の上に配付した資料の内、スマイル新潟ヘルスプラン、ブルーの表紙のリーフレットになりますが、こちらは保健所健康増進課から提供していただいた資料になります。健康づくり推進基本計画第3次が本年4月から開始になりましたので、参考に配付させていただきました。

	<p>また、もう一枚のリーフレット、カラー印刷のA4一枚物のリーフレットは、食と花の推進課が実施しているSNSを活用した情報発信についての資料となります。</p>
会 長	<p>ただいまの、昨年度の状況と今年度の状況の報告について、ご質問などがありましたらお願いします。</p> <p>大丈夫でしょうか。</p> <p>私から質問します。資料1、第3次新潟市食育推進計画数値指標一覧の目標について、連続して改善しているものがいくつかあって、こういうところが三つあったということなのですかけれども、2と3と、これは、取組みの何がよかったかを振り返ったときに、資料2に記載されている事業との関連があるということでしょうか。</p>
事務局	<p>そうです。資料2にえらぶ、つくる、たべる、育てるというそれぞれの視点ごとの事業が区分けされておりますので、それらの事業が継続的に実施されていることによって数値がよくなっている可能性があるということになります。詳しい分析ができておりませんので、予想でしかないのですけれども。</p>
会 長	<p>どの事業がどうかは分からないのですけれども、全体としてくっついている事業ですか。</p>
事務局	<p>そういうことになります。</p>
会 長	<p>というように、つなげて見ていただければと思います。</p>
藤田委員	<p>同じような質問なのですかけれども、逆に、指数が落ちている項目がありますよね。一番気になるのが、資料1の1番目です。「食（食事や食習慣）」に関心を持っている市民の割合が減少しているというのは、その他のところでけっこう健闘しているところからすると考えられない。しかし、国そのものもそれぞれの目標指標に対してどう評価したらいいか分からないくらい、微妙な動きであるという中で、この1番は、調査の仕方とか何かに問題があるのではないかと思いますか。</p>
事務局	<p>食に関心を持っている市民の割合については、平成18年の第1次食育推進計画のときから国が掲げ、それに合わせて新潟市も掲げてきた指標です。現在、私の手元には平成23年度からの経年変化しかないのですけれども、大体80パーセント前後を行ったり来たりしております、なかなか、上がりもしないのですけれども下がりもしないということです。毎年3,000人の市民を対象に無作為抽出でアンケート調査を行っているのですけれども、今回、4.4ポイントも減少したことで、何か原因があるのではないかとはいったのですが、そこまでの分析をしていないので分からないのですけれども、やはり食や食育に関する関心度が全市民的に落ちていることも否定できないと思っております。</p> <p>実は、第3次食育推進計画にする際に、1番の数値指標については、第2次</p>

	<p>までは食に関心を持っている市民の割合という言い方をしていたのですけれども、第3次からは食（食事や食習慣）という括弧書きを入れて、より市民が行動しやすい、分かりやすいような数値指標にしました。一応、質問の仕方、指標の項目としてはこのように変わったということで、報告させていただきます。</p>
会 長	<p>国は「食育に関心を持っている人の割合」ではなかったですか。</p>
事務局	<p>国のものは私の手元にあるのですけれども、国の第3次計画の推移がありますが、単純に「食育に関心を持っている国民の割合」です。平成27年度が75パーセント、平成28年度が79.6パーセント、平成29年度が下がりました78.4パーセントと、上がったり下がったりしています。</p> <p>目標は90パーセント以上ということで、新潟市も同じなのですが、ここもやはり国の評価としてはなかなか上がったたり下がったりする理由づけすら難しいという、分析ができないということを報告書としていただいています。</p>
会 長	<p>たしか、私の記憶では、新潟市は最初は食育にしていたような気がするのです。</p>
事務局	<p>はい。</p>
会 長	<p>それで、新潟市として関心を持ってほしいのは食育というよりも食だよねという話になって、あるときから変えたのですよね。</p>
事務局	<p>第3次から変えました。</p>
会 長	<p>国はそのままなのですけれども、新潟市は第3次から食そのものを対象にしたということです。</p> <p>分析の方法として、例えば、男女どちらで下がっていくのかとか、あるいは年代として若いほうが下がっているのかとか、今後でいいのですけれども、何か見ると分かるかもしれません。</p>
事務局	<p>分かりました。ありがとうございます。</p>
会 長	<p>ほかにかがでしょうか。</p> <p>ないようでしたら、議題（3）令和2年度食育推進事業について、事務局よりご説明をお願いします。</p>
事務局	<p>引き続き説明させていただきます。</p> <p>資料7をご覧ください。令和2年度事業を進めるに当たっての基本的な考え方を盛り込んだイメージ図になります。次年度は第4次食育推進計画を見据えて事業を実施する年と考えており、これから説明する方向感で当課の事業を進めたいと考えています。</p> <p>それでは、イメージ図に沿って説明します。食に関する課題は、その時代の社会情勢を反映しており、たくさん、本当に数え切れないほどありますが、その中の一つに、食を楽しめなくなっているということがあります。その背景と</p>

して、日々の忙しさから、食を楽しむ余裕がない、食べるのが作業になっている、外食・中食が充実したことにより、自分で作らなくても手軽に手に入るようになり、便利になったことで食に無関心になっている。また、食に関する取組みを押しつけられるのは心から食を楽しむことができないなどが、ごく一部として上げられます。市民が食の営みの中でどのような姿であったらよいかと考えたときに、市民一人ひとりが“食の楽しさ”を実感することが大事であり、それがきっかけとなり、食に関心をもち、関心を持ったことをきっかけとして、楽しみながら自発的にいがた流食生活でいう『えらぶ・つくる・食べる・育てる』を実践することができるようになるというなど。そして、自発的に取組んでいけるのではないかということで、食育を実践するための行動変容、別の言い方をしますと、市民に主体的に動いてもらうためには、楽しいというキーワードがとても大切なのではないかと考えたところです。本課が次年度事業を進めるうえで、楽しさを感じる場を作るような事業を組み立てていきたいと考えているところです。

少し例を言いますと、食育の日の取組みなどは、今、やっていますけれども、楽しみながら取組める工夫。来年、郷土料理をやるかやらないかは少し置いておいて、郷土料理の教室を普通にやると、やはり年配の方や、本当に私たちが来てほしい層の方々はなかなか来てくださらないのですけれども、単に何々郷土料理教室をやりますという形での開催ではなく、少し乱暴な言い方になるかもしれませんが、のっぺ作りって楽しそうとか、面白そうとか、興味とか関心を持ってもらえるような仕掛けというか、楽しく取組めるような方法を考えていくようなイメージ、そのように取組んでいきたいと考えています。

ターゲットですけれども、重点的に若い世代、親世代（子育て世代）としたいと思います。子どもに対する食育の必要性は当然であり、今までもこれからも子どもに目を向けることに変わりはありませんけれども、子どもに直接声をかけてもその親世代が変わらなければ子どもも変わらないことから、子どもへの波及効果ももちろん期待するわけですけれども、親世代をターゲットとし、また、大学生等のこれから親になる世代の食育の取組みは前々から問題だと言われながらなかなか進んでいない現状があることから、次年度の重点ターゲットと考えています。

次に、資料8をご覧ください。これは昨年度末に平成30年度事業として当課が実施した郷土料理講習会と食育の日の取組みについて、委員の皆様より、よりよい方法についてのご意見をいただいたものをまとめたものです。四つの質問ごとに区切っていますけれども、それぞれの質問ごとの四角の中は、同じような意見を項目別にまとめたものになります。四角の中に続く意見は、委員の皆様の意見を原文のまま記載させていただいています。ご意見については次

	<p>年度事業にいかせるものがたくさんありますので、今日は一つ一つのご意見に対しての議論はできませんので、今後の参考にさせていただきたいと思えます。</p> <p>この意見の中に、自分が食べておいしかった、食材の豊富さに引かれたという自身の体験で感じたことが次のきっかけづくりになって、自分も作りたい、おいしい食材を買いたいという行動変容へのきっかけづくりになる、というご意見があるのですけれども、なるほどということ、次年度の事業を考えていく一つの裏づけにもなりました。</p> <p>以上で説明を終わりますが、資料8について詳細の説明をできずに大変申し訳ありません。今後の事業に大いに活用させていただきたいと思えます。最後の意見交換の場でご意見を頂戴できればと思えます。</p>
会 長	<p>それでは、次年度の事業について、具体的なところは出てきているのですけれども、考え方、方向性について何かご質問などがありましたら、お願いします。</p> <p>先ほど藤田委員からありました、気になる指標1の食に関心を持っている市民の割合が低迷しているという中で、今回は特に若い世代、親世代をターゲットにして、食の楽しさから入っていく、食育をしましょうとか関心を持ちなさいみたいな押しつけではなく、食の楽しさから入っていくというコンセプトになっています。何かご意見、ご質問があればお願いします。あるいは、資料8でご意見をいただいていると思えますので、委員の皆様が出された観点から、次年度の事業に対して、こういうことがいいのではないかというコメントでもいいと思えますので、少しいただければと思えます。</p>
立山委員	<p>抽象的な言葉なので、できればもう少し補足で説明をしてくださるとうれしいと思っている箇所が1か所あります。食の楽しさなのですけれども、食というのは複合的な言葉で、ここでは具体的に細かい事例が出ていないので、示すことができないというのはよく分かるのですけれども、楽しいという、食の楽しさとしてどのようなことが想定できるのかを事例として教えていただくとありがたいと思えます。選んでも楽しい、作っても楽しい、食べても、楽しいというよりもおいしいのかもしれないけれども、人とのコミュニケーションが楽しいのか、どこかに絞り込むのか、それとも満遍なくやるのかといったアイデアがいろいろ出てくると思うので、その辺をもう少し補足いただくとよく理解できるので、今の段階でのイメージでけっこうですので、教えていただけないでしょうか。</p>
事務局	<p>特にこの事業の一つ一つについて、個別にアイデアがあるわけではないのですけれども、例えば、食育の日ということ、先ほどご説明させていただきました。スーパーの中で食材コーナーを作ったり、のぼりを立ててやっているの</p>

	<p>ですけれども、私の立場でこういうことを言うのは大変申し訳ないのですけれども、一般市民、消費者にとって、お店に入って食育の日ですというのぼりを見た瞬間に、では、具体的に私は何をしたらいいのですかと。地の物を買ったほうがいいのですか、それとも今日は郷土料理を作ればいいのですか、今日は一汁三菜のものを作る日なのですかと、メッセージがよく分からないのです。</p> <p>では、そこで、今日は地場の物を使った料理にしましょうというのも一つでしょうし、郷土料理を作ってみませんかというのも一つなのでしょうけれども、それを押しつけることはやはりなかなか難しいので、もっと分かりやすく市民に受け入れていただくためには、今日は食育の日です、すなわち、今日は食を楽しみませんかというご提案なのです。楽しみ方は人それぞれなので、では、今日は親子で作ってみようかしらとか、今日は少し手の込んだ物を作ってみようかしらという、その行動を起こすうえでの我々からのメッセージと、食育の日という、例えば、そのようにとらえていただければと考えているところです。</p> <p>また、今、皆さんご承知だと思いますけれども、中食、いわゆるお惣菜や冷凍食品という市場がどんどん伸びていっています。これは当然、理由は皆さんお分かりのとおり共働き世帯が増えており、料理をする時間が減っていつまわっているということがあると思うのですけれども、この流れ自体をとめることはなかなか難しいと思うのです。そのような中で、では、お惣菜になったり冷凍食品になったりするのはいくらでも仕方ないですよ。ただ、買って来てパックのまま食卓に出すのではなくて、何かちょっと一手間加えてみませんかとか、ちょっと何かしら自分なりの楽しみをそこに加えることで、お惣菜や冷凍食品が悪いとは言いませんけれども、味気なかったものが少し楽しい食卓になったらいいなということを、せめて、やれる範囲でいいので、やってほしいということも、二つ目の例示として出させていただきました。だから、具体的にどうということよりは、一つ一つのことに楽しいという観点で物事を組み立てていきたい、我々のメッセージとして発信したいということを考えているところです。</p>
<p>会 長</p>	<p>計画自体はまだ第3次のままなので、大きく事業の組み立てが変わるわけではなく、今までの、例えば、資料2に書いてある事業の組み立て自体は恐らくそれほど大きくは変わらなくて、一つ一つの事業の中に通すメッセージを、今、資料7で、もう少しこちらにフォーカスを当てることによって、指標の1番につながってくるのではないかとということだと思います。そういったことでもよろしいですか。</p>
<p>立山委員</p>	<p>とてもよく理解できました。</p> <p>それで、私は最近はとしたことがあるのですけれども、時短ができるよう</p>

	<p>な食事を作っている人は、悪いことをしているとか、バランスが欠けているのではないとか、いろいろなことを思う人が多いのかなとずっと思っていたのですけれども、実は、意外と時短でそういうことをやっている人のほうがいろいろな調理道具や新しい食材や新しい食べ方に関心が高い人が、そちらのほうが比率的多いのだということに気づきました。楽しいというのも、今日はこだわらしましょうとか関心を持ちましょうというところに言葉を置きかえていくと、具体的な事例は、特に、楽しいという、それぞれの人の受け止め方がさまざまなので、こだわりを、今日はお店に来たけれども、例えば、目についた食材にこだわって何か面白がってやってみませんか、しっかり楽しめる方に伝わるといい計画になるのではないかと思います。</p>
高塚委員	<p>関連してなのですが、私は農産物を生産して、直売所やいろいろところで販売させていただいているのですが、農家目線から言うと、どうしても作物のスペックというか、このように作りましたとか、このように機能性が高いものか、すみたいなことを言いたくなるのですが、最近、それでは買う方の心は動かないなと思っています。先ほどの事業、食育の日ののぼり旗もそうなのですが、旗を見ただけでちょっとげんなりしてしまうような方も、多分、大多数いらっしゃるのではないかと思います。先ほど、いみじくも何をしたらいいのか分からないとおっしゃっていたのですが、まさにそのとおりだと思います。</p> <p>我が家も、10種類のジャムのラインナップがあるのですが、どれを買っていいか分からない。いろいろあると言って、最後、迷って買わないというのが人間の心理だと勉強したことがあります。そうすると、例えば、今だったら藤五郎梅のジャム、新ジャムができました、迷ったらまずこれを、みたくにすると、そのジャムが動くだけではなくほかのジャムも動いたりするのです。スーパーやいろいろところで展開するときに、ぼんやりしたものではなくて、例えば、今だったらなすとか枝豆に特化して何か打つほうが、じゃあやってみようかなと思えるのではないかと思います。そのようなことも、ぜひ、考慮に入れていただきたいと思います。</p>
平松委員	<p>私は保育園なのですが、食育の日は19日ですよね。大体その前後に誕生会があるのです。給食の先生は、誕生会と食育の日が2日続くときもあるし、間を置いてというときも工夫しながらやっているのですが、なぜ19日にとらわれなければならないのか。たった1日だけではなく、その週を食育デーみたいにしてもいいということで、前の園は19日には早番の先生がきちんとのぼりを玄関の脇に立ててくれたのですが、今はそれほど広い園ではないので、こんな感じの小さな旗が常にあるという感じで、意味がないなと思って、お母さん方が時間を書くところに置いてあるのですが、無</p>

	<p>理に 19 日にこだわらないで、例えば、勤めている親は平日の水曜日辺りの 19 日に食育をしようと思っても疲れているということがあって、できれば土曜日とか、お昼にランチをした後に夕飯はあなたの好きな物を食べてみるとか、何があれば土曜日とか、お母さんも勉強しようかなみたいな、スーパーと一緒に夜、お父さんと一緒にやってみるみたいなものがあるならば、土曜日とか日曜日に。無理に 19 日にこだわる必要はないと思います。なぜ食育が、どこからそこがスタートしたのかなと私は思っています。季節的なものを考えて、月の初めでもいいし、来月はそれこそすいかデーだとか、なすとか枝豆もそうですけれども、新潟の人はこんなにたくさん枝豆を食べるのだよと、よそから来た人が驚くくらいです。</p> <p>例えば、うちの園でも食育活動をしていますけれども、砂地の園庭の枝豆と菌ちゃん取れた枝豆は粒の大きさも違うし、茹でてみて甘さが全然違うし、そこから取って毛のところもよく洗って塩を振ってと、茹でるところから私たちがそういう食育を、わざと砂地でもきちんと生えるのだねみたいな、そのようなことを楽しんでいるので、お家の人にも土曜日や日曜日はお家で食べてみて、みたいな感じで、やってみたよ、ホットプレートでなすの油炒めをしたよとか。菜箸でやってみてくださいと言うと、やるのです。ただ、平日はとても忙しい。なにも 19 日にこだわる必要はないと思います。</p>
会 長	<p>大変貴重な意見をありがとうございました。私もとても同感で、働いているので平日は無理です。土日にしてくださいと言いたいことがとても伝わってきました。いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>おっしゃるとおりだと思います。結局、食はすべての人間がかかわることですので、やれる範囲で、やれるペースでやりたいときにやるのが一番大事だと思いますので、おっしゃるとおり、やれるときにやるのが一番いいのかなと。それも結局は楽しいということなのだと思うので、そこにつながってくるのかなと思っています。できれば、なかなか忙しいのだけれども 1 日くらいは、月に 1 回やろうよというのが食育の日というものの意味合いのかなと。また一方であったと思うので、いろいろ考えてみます。</p>
会 長	<p>その週というのはいいかもしれないですね。その週末みたいなことで。</p>
和須津委員	<p>それに関連してというか、先ほどの 19 日の食育の日ということで、なぜ 19 日にこだわることか。こだわるわけではなくて、ただ、皆さん毎日忙しい、しかし、せめて 1 日くらいでも食育のことを考えようという投げかけのために 19 日を食育の日ということで定められて、たまに、食育の日というテレビコマーシャルが入るのです。それで、やはり、知らない方でも、あ、食育の日というものがあるのだと。平成 18 年に食育の日が制定されてからかなりたつてはいるのですけれども、まだまだ浸透は少ないということで、その週なら本当</p>

	<p>にいつでもいいです。いつでもいいのですが、食育について少し考えようという日のために19日と国が定められたわけですから、その日の前後、その週とか。19日は毎月来ますので、毎月どこかで食育を考えようという日を1日1日積み重ねていくことによって、みんなの食育の意識が高まっていくのではないかといいことだと思っておりますので、ぜひ、皆さんもそのきっかけづくりの19日だと思っていただければと思います。</p>
会 長	<p>ほかにいかがでしょうか。</p> <p>ないようでしたら、最後の議題に少し時間を取りたいと思います。議題(4)第4次新潟市食育推進計画の策定について、事務局よりご説明をお願いします。</p>
事務局	<p>引き続き説明させていただきます。資料9及び別紙をご覧ください。</p> <p>まず、資料9です。第3次食育推進計画の計画期間が平成29年から33年度、令和で言うと令和3年度までの5年間となっており、第4次食育推進計画の計画開始年である令和4年度に向けて、次年度より段階的に準備を進めるべき時期に来ています。本日は、次年度からの準備がスムーズに行くよう、委員の改選について、策定までのスケジュール、計画の数値指標についての現時点の事務局案をお示しさせていただきます。</p> <p>最初に、委員の改選についてです。委員の選考は、新潟市食育推進条例と新潟市附属機関等の指針に則り行います。委員の任期は令和2年4月から令和4年3月31日までとなります。委員の人数については、現在の半分の10名程度を考えております。この理由ですけれども、当会議の人数は、条例の中では25人以内をもって組織することと定められています。第1次食育推進計画策定の発足時は初めての計画策定であったこと、食育の普及啓発が第1の目標だったことで、さまざまな分野の方からのご意見やお力が必要であり、20名という人数で構成してきました。その後、食育が当初より浸透し、現在は食育の実践的な取組みをさらに充実していく時期となっていること、意見交換を今まで以上に行うことも大事になってきています。限られた時間内で20名の委員の方と意見交換をすることはなかなか厳しいということもありまして、思い切って人数を現在の半数の10名程度と考えました。また、委員の選考に当たっては、ターゲット、コンセプトと関連させ、子どもやその育成世代と、若い世代に関連のある団体や個人を中心にした選考を検討したいと思っています。委員の改選については今年度中に進める予定です。</p> <p>続いて、3の食育推進計画の数値指標について説明させていただきます。本市の食育推進計画の数値指標は、第1次計画のときより、国の食育推進基本計画を参考にしながら、そこに本市の特徴を加えて組み立ててきました。国の指標と合致させる項目もその中に置き、国との比較も行ってきました。次期計画</p>

	<p>策定に際しては、国の方法を全く無視するということではできませんので、踏まえつつも、本市の食育を推進するためのコンセプトに合わせて指標を組み立てるなど、新たな視点を加えていきたいと考えています。数値指標の項目や指標数といったことの具体的な案は次期計画策定の中で検討していくこととなりますが、市及び関係団体等が行う食育推進事業が同じ方向に向かって取組めるような目標が掲げられたらいいなと思っております。</p> <p>次に、2の計画策定までのスケジュールについて、資料9―別紙を基に説明させていただきます。計画期間は令和4年度から8年度となります。まず、令和2年度です。会議は年に2回の開催を予定しています。この年は、計画の方向性等を検討し、素案の作成及び骨子案の提示をすることとし、合わせてアンケート項目を検討します。アンケート調査は数値指標の評価をするために実施するものであることから、数値指標と連動させた内容となるよう調査内容を決めます。</p> <p>令和3年度については、会議を3回開催することとし、計画の方向性、素案を示す。素案について検討を加える。12月議会に報告。さらに、パブリックコメントの実施。3月の会議ではパブリックコメントの結果を報告し、結果を踏まえた計画の最終案を示します。3月議会にて報告し、計画を決定、さらに、市長に答申します。</p> <p>令和4年度より、第4次計画開始。市民や関係機関等への周知とともに、概要版を並行して作成していきます。</p> <p>というような流れを想定しています。これは第4次計画策定についての現時点での事務局案になりますので、委員の皆様には、具体的なご意見、次期計画に期待することなど、何でもけっこうですので、頂戴したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>会 長</p>	<p>次期計画が、計画期間としては令和4年度から8年度です。少し先のように思えるのですが、2年くらいかけて策定するというスケジュール感で、次年度から策定に入るスケジュールということです。</p> <p>まず、策定の方針について、何かご質問、コメントなど。中身というよりは策定方針についてのご質問、ご意見を伺いたいと思います。いかがでしょうか。</p> <p>よろしいでしょうか。それでは、第4次計画に向けて、これまでずっとメンバーとしてこの食育のことに携わってこられた中で、第4次に向けてのメッセージというか、こういうことをもっと強化したほうがいいのではないかとか、こういう観点も必要なのではないかとか、こういう方向で行くといいのではないかとかということを含めて気になったことを、何でもけっこうですのでお願いしたいと思います。</p> <p>実は、現在の委員の任期が今年度までとなっております、次期委員の任期、</p>

	<p>資料9にありますのが次年度の4月1日からで、今回が最後の委員会になるということもありますので、思い残すことのないようにというか、皆様、言いたいことは全部言っていただけるとありがたいと思います。</p> <p>それでは、事務局に今まで期待することなど、コメントをいただければと思います。</p>
藤田委員	<p>思い残すことのないように考えてみたいと思います。特に、役員選考の視点が、子どもやその育成世代ということになると全く外れてしまうので、それこそ本当に思い残すことがないようにお話ししなければいけないと思います。</p> <p>いろいろな活動を進めるときに、PDCAサイクルに乗ってやるというのはどこでもやっている当たり前のことなので、PDCAのPは計画ですから、それが第4次計画になるわけですから、それに対して反省、チェックの部分が、現在お話ししているところになると思います。そうすると、数値目標が適正であったか、それを達成したかしなかったかという部分が反省点としてチェックする項目になるのではないかと思います。それに対して、今度はどうするというものが新たな計画になっていくのだろうと思います。</p> <p>そのような大きな視点から申し上げるのは以上として、食育、食の楽しみ、まさに食というのは楽しまなければうそで、ということなのですけれども、食育の必要性が全国的に叫ばれてきている背景には、食がいろいろ社会問題に結びついているという背景があって、簡単に表現すると、食をおろそかにするとこんな問題がありますということがあるわけで、そこの打ち出しをもっとやっていけば、関心が自ずから高まるのではないかという気がするのです。それなしに関心を高めるのはなかなか難しいと思います。テレビ番組などで食に関するものは、おいしい、楽しいだけに終始するものが多いなと思うのですけれども、食の選び方を間違えるとこのようなことになりますみたいなのところがあったりすればいいなと。</p> <p>最近、医療関係の番組が非常に増えていて、これはまさに危機感をあおる番組で、だからこそ注目を集めます。自分の周辺にも必ずあることと危機感が連動しているわけですが、食についても、そのような感じで問題提起をするものを入れ込んでいくと、関心を上げやすいのではないかと思います。そして、活動の方針としては、いろいろな媒体に取り上げていただくべく、例えば、週刊誌とか新聞とか公共放送というようなところに取り上げていただくようになると、関心がずっと上がっていくのではないかと思います。項目1の達成率に対しての意見です。</p>
会 長	ほかに、どうぞご自由に、いろいろな観点からお願いしたいと思います。
事務局	今日は全員の方に一言ずつはしゃべっていただきたいと思っていますので、何かしら発言をされて、今日はお帰りいただきますよう、お願いいたします。

親松委員	<p>本当につまらないこと、感想程度のことしか言えないのですけれども。</p> <p>先ほどから食育の必要性が随分浸透してきたという話も聞いているのですけれども、私は公募委員としてこの2年間、市報やいろいろなものを見てきましたけれども、果たして、新潟市でこのように一生懸命食育に関する活動をしていることを、どの程度の人知っているのだろうか。また、食育って何と聞かれたときに、どの程度の人がこういうことなのだと、だから大事なのだと答えられるだろうか。そこら辺をはっきりしないと、いくらターゲットを決めても浸透していかないと思うのです。今、アプリとかSNSで一生懸命情報発信していきますと言っても、それは全員が目にする情報手段ではないわけです。だからもう一度、市民にどのように食育の必要性、意味を知らせていくのか。またいろいろな取組み、私は市報を見ていてもあまりいろいろな取組みを目にしたことがないのです。市民の目に触れる活動、それから報告をしていかないとだめなのではないかと思います。</p> <p>私がここに応募したのは、食育は体とこころの健康教育、人格形成にかかわる大事なものなのだという関心を持っていたので応募したのですけれども、しかし、私の仲間は、食育って何と聞いたときに、何名の人が答えられるかなという感じがあります。せっかく一生懸命やっていることですので、もっと万人向けの手段で、そのよさ、大切さを伝えていってほしいと思います。</p>
和須津委員	<p>私は食生活改善推進委員をやっているのですけれども、食生活改善推進委員でやっている、講習会とかお料理のほうで募集をかけても、集まってくる者はやはり少し年配の方とか、公報に出しても公報からの募集で来るのはほんの数名であったり。ということは、公報を見ている方が少ないのだなというのは分かるのです。これから食育をもう少し浸透させていきたいと思ったときには、学校とか保育園とか、そういう子どもたち、子どもだけではなくて親が大事なのだということもありますけれども、しかし、やはり、子どもが家に帰って、学校で習ったのだよと言って、こうではなくてこういうふうに食べたほうがいいんだってと子どもが言うことによって、大人がはっとさせられる部分があるのです。ですから、もっと学校に働きかけ、子どもたちに食育って本当に大事なのだと。</p> <p>今、特に、切れるとか、事件事故を起こす人たちは、やはり食の乱れが原因だったり、心が病んでいるというのは食が原因で心が病んでいる方がとても多いのです。だから、やはり食は心に通じることですし、健康にも通じることですし、体の育つ、一番大切な子どもたちに心と体と両方一緒に育っていかないと、少しおかしくなっていくのだということをしっかりと教えていくのが食育だと思うので、そういったものも入っている食育なのだということを教えていく必要があるのではないかと思います。</p>

丸山委員	<p>小学校で栄養教諭をやっている丸山です。</p> <p>生産者の方とのつながりと言いますか、西区で大根とさつまいもの収穫体験を3年生のところでやらせていただいています。スーパーですと、大根はほぼ葉っぱがない状態で売っているのですが、自分たちが抜いてきた大根は葉っぱつきで、持って帰って、家でお家の人と葉っぱも料理してねと。今まではそごまりだったのですが、昨年度は、大根の料理をお家の人たちと考えて写真を撮って、それを給食週間のときに出すとか。実は、1月になると地場産の大根はなくなってしまうのですが、そういうものを給食で出してもらうという計画で、お家の人を巻き込んでやるということ、昨年度はやりました。学校もなかなか忙しくて、総合学習で3年生でやっていたのですが、そのように収穫している状態が分からないものがスーパーに並んでいるので、こういう状態でとれるのだとか、普段は食べないけれどもこんなに栄養があるのだということ働きかけていけたらと思います。子どもたちの目を通して、またお家の方もこんないいことがあるということに分かってもらえればということで、いろいろなお話を聞いて感じました。</p>
小山委員	<p>私は中央青果で販売をしている小山といいます。よろしくお願ひします。</p> <p>今ほど、学校の先生からお話がありました。資料の食育という形ですと、やはり畑へお邪魔して収穫体験。これについては、やはり親子を募集して収穫体験を行ったり、また、これもやはり親子を対象として、食の意見交換をやったり食べ比べをやったりということで、食育も進んでいます。ただ、残念ながら、新潟の食材で食育を進めるよりも、県外の食材を新潟に広めていこうという食育のほうが非常に活発です。特に、今、私たちがやっているのは、保育園、幼稚園、小学校、中学校、高校、さらに先回は新潟医療福祉大学ということで、了解を得られている学校へ連絡を取ってお邪魔してやっているわけです。やはり、県外の方が非常に新潟の食に広めていってもらいたいということで、ターゲットとしての食育ということで広げていくものが増えてきています。逆に、新潟は、例えば、枝豆やすいか、そしてトマトというように、限られたものしか食育がなされていないというか、我々が参加できる食育ということで言いますと、そういう形でちょっと少ないなど。</p> <p>今ほど話がありましたとおり、いわゆる食育という形のものだけ取っていきますと、小さい世代、そしてまたお母さん世代、そしてまた親の世代という形があります。この中で、伝統的なものを含めてもそうなのですが、当然、小さい子どもには伝統的なものは分かりません。かといって、ではその親が分かるかという、分からない。例えば、それを広めていくとなると、今のお母さん世代とその親の世代をターゲットにするということで、さまざまなターゲットのスタンスがあるので、そのものが一つ一つのターゲットにどうそのものを</p>

	<p>当てはめていくか、そういう形のものをもう少し明確にしていけないと、なかなか食へのこだわりなり、また、食への関心も上がっていかないのではないかと思っています。</p> <p>また、さらに、今、取組んでいるものでいきますと、先ほどあった共働き世帯で、時短ですから、なかなか、本当に週に1回、2回くらいしか、お母さん方もなかなか力を入れて料理もできないのかなということは感じています。</p> <p>ただ、そのものも、本当にこつこつと推進していけば、間違いなく定着してきていますし、効果が現れてきていると思います。意見交換する中で言いますと、非常にお母さん方が包丁を持つ時間が少し長くできましたということがありました。前は、やはり、レンジでチンではないですけども、冷食、そして総菜といったものをそのまま出すといったものが、少し包丁を出す時間が長くなったという声もありました。そういうものを考えていきますと、長い時間はかかりますけれども、一つ一つ丁寧にやっていくことによって定着していくのかなと思っていますので、ぜひ、食育についてはこつこつとやっていただきたいと思います。</p> <p>それともう一つ、最後ですけども、量販店で食育ののぼりとかいろいろあります。先ほど、のぼりを見てもあまりぴんとこないという話がありましたけれども、実は、量販店なりスーパーは、お店に行くと、商品も並んでいますし、食育の旗もありますけれども、多分、それについて詳しく分かる店の方はほとんどいないでしょう。進めていく末端のプロもいないのです。ですから、親のターゲットと言いましたが、商品をターゲットにするものと、そこにまた進めるターゲットを一つ作っていかないと、なかなか食育も、旗をただ並べただけ、ただ置いただけになりますので、そういうところも少し食育の中で必要なのかなと思います。</p>
高塚委員	<p>先ほど少ししゃべったので、もう終わりかなと思ったのですけれども、大丈夫でしょうか。</p> <p>私は、今、本業の農業のほかに二つのNPOの経営にかかわっています。一つは、秋葉区でAkiha 森のようちえん、笹山子育て支援センター、プレーパークなどを運営しているNPOがあるのですけれども、まず、そちらが先にかかわり始めまして、本当に自然体験とか農業体験は非常に興味がある方しか、もちろんですけども応募してこなくて、ほかのイベントとかもそうだと思うのですけれども、郷土料理にしてもそうだと思うのですけれども、イベントを打っても、ものすごく興味がある層しか来ないのです。むしろそういう方は本当に十分、食にも気を遣っておられて、もう少し違う層というか、どうやったら親に感心がない層にアクションできるのかなというのが、森のようちえんなどをやっているとしても感じたことだったので。</p>

	<p>今、平松委員の新潟市立亀田第1保育園にもやっていただいています。先ほど話が出た菌ちゃんリサイクル元気野菜づくりのインストラクターの養成と、インストラクターをやらせていただいているところにかかわっています。NPO法人にいがた農えん隊というところがありまして、そこは幼稚園と保育園にも行かせていただいていますけれども、アグリパークでのアグリ・スタディ・プログラムのお手伝いをしていまして、7月は特に小学生の訪問が多くて、いろいろな実際の野菜を見ながら、学校で育てている野菜もどうやったらもう少し上手に育てられるかみたいなことをお話ししています。これから、少しまとまらないですけれども、食育という少し上から目線の言葉というか、ずばっと何か提言するよりも、こういう会議ではいいですけれども、もっと重層的にいろいろな団体がいろいろな手法でいろいろなことをやるしかないですけれども、なかなか指標、どうしても報告書には指標が付きものだと思うのですけれども、数値化できないものが多くて、一応、アンケートで数値が上がりました、下がりましたと一喜一憂するのではなくて、もう少しほかにないものなのか。人の心が豊かになったとか、子どもたちの自己肯定感が上がったみたいな指標ができると、非常にいいのではないかと思います。</p> <p>先ほどの菌ちゃんの取組みは、実は、第2ステージがあって、今、食改善プログラムということで、1か月間、子どもと親と一緒にいろいろな約束事をして、毎日、食べるときは30回噛むとか、あいうべ体操をやろうとか、菌ちゃんの発酵食品を食べようとか、いろいろなものを1か月やるのですけれども、如実に子どもたちの反応が変わってきますし、子どもたちの反応が変わるので、最初は少し嫌々なのですけれども、忙しくて大変なのだけれども毎日みそ汁を作るようになりましてみたいな親も増えていると思うので、何かそういう地道な取組みもそうですし、それだけではなくて、医師会とかそういうところから、きちんとした、こんなミネラルを取ることはとても体に必要なことだ、みたいなエビデンスもいただいたりして、チーム新潟で、もう少しいろいろな取組みを有機的に発信できないものかという気がしています。今は少しばらばらにやっている感が否めないのです。菌ちゃんといっても、やっていることを知っている方はほとんどいないので、小学校のアグリ・スタディ・プログラムもそうですけれども、非常にいい取組みだと思っているので、何かその辺をもう少し頑張りたいという、すみません、意見というか決意表明でした。</p>
立山委員	<p>大学で、私は管理栄養士を養成している大学で授業をしているわけですがけれども、大学の学生も、私が若かったころに比べると、今の学生は料理はできない、何か新しい食品を、これおいしいよねと薦めても、そういう食品がいつ販売されるのかなということで、それは家庭で少しやればできるのではないですかという話をしても笑っているだけという、私も随分年を取ったなと感じてい</p>

	<p>るところです。</p> <p>ただ、ほかの学科の学生と違う特徴は、ここにいらっしゃる方もそうかもしれませんが、とにかく食いしん坊なのです。食に関心がある。そういう方々で話し合っってアイデアを出すと、やはりこだわりを持ちましょう、関心を持ちましょう、楽しい、こんなものもありますよということもたくさんお話ができて、その中では盛り上がるのですけれども、やはり 20 パーセントの人は、忙しいのか、生きていくために、言葉は悪いですけれども、食の楽しみをどこかに置いてしまっている方々なのかなという気がして、非常に残念な気持ちです。食育活動というのは、そういう方々のためにも、もっと食は、生きていくことはすごいのだ、素晴らしいのだということを伝える仕事かなと、日ごろ格好いいことを言っていますけれども、常日ごろいつもそう思っています。</p> <p>新潟県は多種多様な食材がたくさんあるので、地場のものもいいですけれども、やはり旬に限られて多くの人に提供するには限りがあるので。ただ、食いしんぼうでいろいろな食材を見ているところの地域だとすると、他県や外国の食材に対しても、多分、受け入れもするし、食べこなしていくことも楽しむことも上手な人たちが住んでいる市なのかなと思っているので、その辺は、楽しいというものに結びつけて、第4次食育推進計画をやっていただければと思います。</p>
井上委員	<p>先ほど藤田委員がおっしゃったことが少し印象にあるのですけれども、食育は知らない方がたくさん要らして、本当に朝食を食べない数がなかなか減らないというのも、いつもここに出席させていただいて思うのですけれども、そういうことをするとどういふ弊害があるのかとか、口から入れたもので自分の体が作られて、活動のエネルギーになっているということまで考えないのではないかと。か、若いときは本当に自分が元気だったものですから、あまり食生活について深く考えないで暮らしてきたのですが、だんだん年を取ってきましたら、本当に健康でいることの大切さを感じるようになりまして、若いときよりもずっといろいろ気をつけて暮らしています。</p> <p>今の若い方は本当に忙しいのだと思うのは、私は保育園にかかわっておりまして、朝7時に子どもを預けに来て、夕方7時にお帰りになるのを見ていたら、この皆さんはどのようにして夕飯を作って子どもを寝かせて朝7時に連れてこられるのかなと。きっと、食生活などはそれほどゆったりとしたことをなさっていないのではないかと、いつも少し残念に思っています。</p> <p>それで、子どもたちが野菜を作っているのを一緒に手伝っているのですけれども、そこで取れたものを給食に使ったりするのですが、全員が残さずに食べられたということを聞くと、うれしいなと思います。やはり、小さいときからそういうことを少しずつ学ばせて、本当に親への波及効果を狙えることを祈っ</p>

	<p>ています。</p>
<p>水澤委員</p>	<p>先ほど、令和2年度の食育事業について話がありました。私たちの間でも、最近のコンビニは充実しているよねとか、最近の冷凍食品はおいしいよねとか、お家の方がお弁当を作るときも、簡単よ、チンしてぱっと入れればいいからという話を聞きます。忙しいということもあるし、本当に中食がとても充実してきている、宣伝もしている、そして味もいい、種類も多いとなってきた感じます。</p> <p>皆さんのお話をお聞きしながら、若い親世代を動かすには、やはり子どもの声的大事だというお話がありました。学校では、栄養教諭は献立表を配るときに食育の日とか郷土料理の日とか、それからサミットで給食とか、かみかみメニューとか、いろいろな表示をして工夫して出してくださっています。それから、配られる献立表の裏にはちょっとしたレシピだとか、旬のものを食べるにはこういうことが大事だとか、健康のためにこうしたらいいとか、ミニ情報も書いてくださって、食育に力を入れてはいるのです。</p> <p>学校の現状としてどうかと考えたときに、例えば、学校によってはお弁当の日ということで、月に1回、自分でお弁当を作ろうというものがあります。それからうちの学校などは、定期的に5、6年生は家で親と一緒に料理したレシピを写真に撮ったり、作り方を書いて持ってきて掲示するということがあります。あと、子どもたちには栄養教諭と担任とが二人で食の大切さについて、1年生から6年生まで、学年に応じた授業もやります。ところが、それがどれほど親に届いているかと言われたときに、1年生は給食試食会というものもありまして、お家の方に来ていただいて給食を食べてもらい、このような給食があるのだとか、給食の大事さについて、改めて説明させていただいたりということもあります。それから、学校のアンケートでは、必ず朝ごはんを食べていますかという項目などもあります。しかし、子どもはいろいろなことを学校で習って意識を高めていきますよね。アグリパークに行くと菌ちゃんをやりました。それで、新しい発見があって、アグリパークからいただいた菌ちゃんを枝豆を育ててということもやって、いろいろな発見はあるのだけれども、子どもにとっていろいろな発見が親に結びついていって膨らむかということ、必ずしもそうではない。子どももそのときは盛り上がり理解はしているのだけれども、なかなかつながらない。だから世間にも食育事業についてこんなにやられているということ、力を入れていることがあまり通じていないのかなと思うので、何か、例えば、同じ学区の小学校と中学校と一緒に食育の日だったらそれにかかわる意識を。よく、学力ではやるのです。学習の何とか日とか学習強調週間とか。少し親に声が届くような取組みをもう少し考えていくといいのではないかと。親は子どもが一番なので、子どもが給食でこれおいしかったよ、</p>

	<p>作ってと言うと、必死になって調べて作りますよね。給食でこういうものが出たとか、これはこうなんだってと言うと、やはり必死になってそれを勉強するので、その辺をうまくつなげていける方法を、また学校もいろいろな知恵をいただきながら考えていく必要があると思っています。</p>
平松委員	<p>まず、令和2年度のこの会議の委員が今よりも半数になるということで、会場は同じここなのですか。まず、私がここに来たときは緊張します。意見を言いにくい。マイクなんてと。あそこに録音もあるということで。やはり10人になったら10人が濃密に意見交換を自由に活発に、皆さんの意見が出るというなど、次の人には思います。ということは、私みたいに緊張しないでマイクなしで、お酒でもあれば一番いいのですけれども、そのように自分の気持ちとか意見交換。今は意見だけですよね。意見交換ができるとどんなに盛り上がるでしょうと、次の人に期待します。</p> <p>あとは、続けていけることが大事です。本当にまさにそのとおりで、よいこと、楽しいこと、そこに簡単であれば続けられるのです。みんなやりたいのです。楽しいこと、おいしいものには時間がかかっても並びますよね、今の若い人は。興味があることが簡単で楽しければ続けられると思うので、続けられるようなことがあるといいなと思っています。</p> <p>保育園では離乳食がお母さんの最初のスタートです。ゼロ歳児で入ってくるとお母さんとはほとんど私が面談するのですけれども、調理員とも一緒に面談しますけれども、離乳食の初期の人に、何を食べてきたか、全部チェックをつけます。そのチェックが全部つくると給食も食べられるのですが、二十歳くらいのお母さんが、ほうれん草？ なんて言って、うーんなんて言って、離乳食の裏の箱を見るときっと食べているかもね、ああ、なんて言うけれども、はっきり言って茹でたことがないのです。ほうれん草を茹でるのは大変だよねと、ましてや茹でて水にさらしてという作業、絞って、そこで葉っぱのほうだけを刻んで本当は入れるのです、離乳食のとき。それをごりごりすりながら、やっと思われのが普通なのだけれども、お母さん、そこが難しかったらカット野菜のほうれん草入れてその中で葉っぱのほうだけを少しさっと茹でて、それだけでも、ほんの少ししか食べないではないですか。それだけでもいいのですよと言ったら、ああ、そうですねという感じです。</p> <p>そんなお母さんも、1日保育士体験というものを参観日でやっています。参観日ではなく、1日その子と一緒に体験してみたと、引き込みました。仕事は入ったばかりだったので、4、5、6の間はまだ働いてないので、今がチャンスと思って、仕事に出たら忙しいと思うから、今のうちに子どもと一緒に1日過ごしてみたと行って、5か月の子どもと一緒に保育園に来てもらいました。そうしたら、アンケートに、エプロンをして保育士として働いているお母さん</p>

	<p>の顔を見て、二十歳なのですからけれども、ほかの子どももかわいくなりましたと言ってくれたのです。もう私はここでガッツポーズです。離乳食味見した、どうだったと。うん、いい味。薄味でしょうと。そこで感じてもらえました。今までは自分の食べた物をつぶしたりしていた。それでもいいよと。今やっていることを絶対に否定はできないのだけれども、そこをつかみながらうまく、それは上の子どももいる、3歳児も育てている二十歳のお母さんなのですが、3歳児の子どもは風邪ばかり引いています。お兄ちゃんはすぐ中耳炎になったり。そういうところはやはり栄養が行っていないのだと思うから、これからこちらからいろいろけしかけていこうかなと思っています。</p> <p>私たち保育士としての立場では、お母さんと身近に、離乳食をしながら食が繋がっていけばいいなと思っています。</p> <p>あと、このたび、こども食育新聞をいただいて、新・第6号、新・第7号とジャガイモ特集をしていましたけれども、保育課からもメールが来ました。春の新じゃがが取れたときの毒性があるものとか、学校で取った掘りたてのところで、やはりすぐに調理したらソラニンが出たとか、芽のところとか、皮が青くなったら使わないということも、学校の先生は分かっていない人がいるのかなと。うっかり調理してしまったというニュースもテレビで出たり、今回のメールでも見ましたけれども、ソラニンだけではなくチョコニンという言葉も、私も初めて保育課からのメールで見ました。そういうものをお母さんたちにも教えていかなくてはいけないのだなと。緑になったものは使ってはいけないよ、皮をしっかりとむいてねと。しかし、菌ちゃんは、大事なものは皮つきでということで、にんじんなどは皮つきで大丈夫ということをプッシュしていければいいかなと思っています。働くお母さんの見方になっております。保育園は安心して私たちが預かって元気よく半日は過ごすから、あと半分は、夜だけでも頑張ってみてねという感じです。全部頑張れと言うと心も折れてしまうけれども、1週間に1回は土日どちらかが頑張ればみたいな、そういう応援をしながら、食育を応援していきたいと思っています。</p>
長谷川委員	<p>歯科医師会の長谷川です。</p> <p>皆様と同じような意見なのですからけれども、昨年度も少しお話しさせていただきました。平松委員からもお話が出ましたけれども、こども食育新聞です。我々の関係者で、恥ずかしながら、ほぼ周知されておられません。ただ、子どもがいる、私も小学生と幼稚園の子どもがいるのですけれども、子どもからその存在を教えていただくと。</p> <p>それで、昨年でしたか、一昨年でしたか、4号か9号か6号、歯の特集をやっていたときに、恥ずかしながら、子どもからその存在を教えてもらいまして、これは少し考えなければいけないなと。もっとその存在を、一部の関</p>

	<p>係者だけではなく、例えば、我々のような医療機関とか、もしくは、今はやっていますけれども、QRコードでホームページにジャンプさせて、その世代以外に見てもらい、周知させていただくということをやっていると、あの新聞はとてもいいことが書いてありますので、もう少し周知方法を多方面にやっていると、非常にまた範囲、エリアが広がるのではないかと思います。</p>
<p>田中委員</p>	<p>最後ですよね。すべて言い尽くしていただいたようなのでまとまらないかもしれないですけども、最初に藤田委員がおっしゃったように、数値指標の1番が私もととても気になりました。普段は子どもから大人まで料理教室をやっておりますので、来てくださる方はそれこそ関心のある方がほとんどですが、反応を見ていると、関心を持たない方がどんどん多くなっていくような感じがしてそれが気になっていたのですけれども、食育という言葉が非常に、皆さんのアンケートの中にもありましたけれども、上から目線のような感じがして、一般市民の方と言ったらいいのでしょうか、もともと関心のない方からすると、見たくもないみたいな感じ、イメージ、上から目線でいやだなと思われているような印象がとても強いのです。食育というと、こういう会議で使う単語としてはいいかもしれないのですけれども、普通の方に対しては、食に関心を持ってもらうことがイコール食育なのだと思うので、新しい食育事業に対して、重点ターゲットは若い方ですので、楽しさをアピールして、そこに関心を持っていただくというのはとてもいいことだと思っています。ぜひ、この指標の数値が上がるようにということだと思っております。</p> <p>それで、いろいろなことを今までもされているので関心が上がってもおかしくないのに上がっていかないのは、楽しいなと思って参加していることが、きっと気持ちが続いていかないからだと思うので、中断のないところで、ぜひ、刺激的なことをいくつか、次から次へジャブを打つではないですけども、考えていただくのがいいのかなということと、先ほど高塚委員がおっしゃっていたように、菌ちゃんの活動とか、それから、幼稚園、保育園で本当にターゲット狭く、ポイント的に食の意識を上げてくださるような活動されていますけれども、そういうことが反映されるような設問の仕方というのでしょうか、数値指標のあり方といいますか、項目というのでしょうか、そういうところを少し、今までとは違う視点で項目を上げていただくと、もう少し関心が上がっていくのではないかとということが、活動の意欲に結びつくのではないかと感じます。</p> <p>先ほど、エビデンスがないことが多いので、そういう数値は、子どもの意欲がわきましたとか、その中には、藤田委員がおっしゃったように、こういう食事をするとこういう悪い影響が出るのだけれども、その悪い影響が出ている項目が、実は、いろいろなことをしていったら上がっていった、突き詰めてみた</p>

	<p>ら、よく噛むようになって食事をするようになったのだというエビデンスの積み重ねというか組み合わせというか、そういうところで数値を見直していただくのがいいのではないかという感じがしました。まとまらなくてすみませんが、よろしくお願いします。</p>
<p>会 長</p>	<p>それぞれの委員からご意見をいただきましたが、追加で何か、皆さんのご意見を聞いていて言い残した、言い忘れた、追加で何か言うことがある方はいらっしゃいますか。</p> <p>それでは、皆様からいただいたご意見を、ざっと私のほうで、すべてをこと細かにはまとめませんけれども、若干ピックアップしていきたいと思います。</p> <p>はじめに、策定の方針といいますか、ベースとなる考え方として、藤田委員からお話があったように、PDCAサイクルに基づいていくということと言うと第3次までの反省点、当然、指標が変わらなかったところ、変わったところの反省点もそうなのですが、そもそも指標の妥当性を検証する必要があるのではないかというご意見がありました。特に、高塚委員、最後の田中委員からも、人の心の動きをどう測るか、意欲とかそういうものをどう測るかとか、あるいは、やったことの効果が反映されるような指標になっているのか。例えば、菌ちゃんですらやったような。私もプレゼンで菌ちゃんの話聞いて、とても効果があったように見えるのだけれども、それがなかなか一覧表の指標のどこに反映されていくのだみたいなどころもあって、取組みと指標の乖離が若干あるのかなというご意見があったと思います。</p> <p>もう一つは、平松委員からありましたように、この次、会議をしていく計画づくりのセッティングの会議をしていくにあたって、意見交換しやすいような環境づくりというのでしょうか、そういったことも考慮していただきたいということが、一つ大きなポイントかなとも思いました。</p> <p>次に、多かったのが、より多くの市民にどう伝えていくかです。それはほとんどすべての委員からお話がありましたように、大きなポイントだと思います。具体的には、さまざまな媒体に取り上げてもらうのがいいのではないかと、学校保育園での取組みが重要で、それはすべての子ども、多くの子どもたちにアプローチできるからだと思いますが、そこから親にどう伝えていくか。そのことによって、より多くの市民に伝えていく取組みの方向性になるのではないかというお話がありました。</p> <p>それから、より多くの市民という意味での、媒体とか、学校保育園を経由して親へというものと、プラスその中間媒体者、お店のスタッフとか、これは小山委員でしょうか、いろいろな飲食店とかスーパーでやっているけれども、店側のスタッフ。あるいは、先ほど高塚委員からもあった、菌ちゃんのインストラクターとかそういう中間媒体の方々、あるいは学校の先生方、保育園の先生</p>

	<p>方もそうかもしれませんが、そういった方々へのアプローチをより強化するといいのではないかというご意見もあったと思います。</p> <p>あとは、食と健康、なぜ食を見直さなければいけないのかというエビデンスを持って伝えていくということに関しても、何人かの委員からご意見をいただいたところです。</p> <p>総じて食への関心を持つということが食育においては非常に重要だということです。これについては、ほとんど意見が一致しているような印象を持ちました。</p> <p>以上の観点で、次期の計画の策定を組み立てていただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、(5) その他についてです。委員の皆様より、何か報告事項があれば、お願いします。</p> <p>ないようでしたら、本日の議事は以上で終了したいと思いますが、事務局から何かコメントがあればお願いし、なければ事務局にお返ししたいと思います。</p>
事務局	<p>村山会長、ありがとうございます。また、委員の皆様から貴重なご意見をたくさんいただきまして、本当にありがとうございました。</p> <p>やはり、食ということはすべての子どもから大人までかわることです。そのときに、上から目線ではないですけれども、どうせ食べるのだったら、やはりおいしく楽しく食べていくことがいいに決まっています。それが、結果、食育なのだ、食に関心を持つことなのだとなつていくことが大事だと思っています。</p> <p>今日、皆様に新潟市健康づくり推進基本計画をお配りしていると思います。これは大変よくできていまして、私はあまり役所内のほかの課を褒めることはないのですが、これは大変素晴らしいです。めくっていただいた2ページ目に基本理念とあるので、すけれども、「生涯健康でいきいき暮らせるまちにいがた」。【目標】健康寿命の延伸とあります。ずばりこれなのです。健康づくりは、健康寿命をどうやったら延伸できるのですかと。左にグラフがありますけれども、これを伸ばすために何をやらなければいけないのかということで、すべて基本方針1、2、3、4、にいがたちよしおプロジェクトをやりましょうと、か、歯みがきをしましょうとかいろいろ書いてありますけれども、そこにすべて帰結していくと思うのです。とても体系的によくできた計画です。</p> <p>こういうものは分かりやすいのですが、では、食育推進計画のここは何だろうねという話を、今、我々は庁内、課内でもしていたのですが、健康寿命はこちらがやっていることだし、では、食育は何を目指すのだろうか。なか</p>

	<p>なか見えないねということで、今日、皆さんのご意見をぜひ聞きたいということで、この場を設けさせてもらいました。</p> <p>一つ言えるのは、今回、この指標、上がったたり下がったり、20項目ありますけれども、これは大事ではないと言っているわけではないです。みんな大事なのですけれども、ただ、この中の一つだけ取って、それを達成したら食育が進んだということも言えませんし、取組むのは、今日お話があった高塚委員のような生産者の方から小山委員のような企業の方々、あるいは学校、保育園、それぞれの立場の皆様がそれぞれの立場で食育に取り組むことがオール新潟で食育に取り組むことのうえで大事なのですが、そのときに、みんなで共通してこれをテーマで頑張ろうというテーマが、もしかしたら、食を楽しむまち新潟なのかなと。</p> <p>新潟市食育推進計画のこの新潟市を、例えば、長岡市、三条市に切り替えてもどこでも使えるよね、みたいな計画ではなく、新潟市の食育って何と言われたときに、市民一人一人が食を楽しむまちなのですみたいなことを言えるような計画に、次期はしていけたら、では、それに向かってそれぞれのプレイヤーの方々が何をしたらいいのかを考えられるのかなと思います。そのようなことを念頭に置きながら、次の計画づくりをしていきたいと思います。</p> <p>委員の皆様におかれましては、去年、今年と2か年の委員の中で、会議が年1回になってしまって、顔を合わせる事が本当に少なくなってしまって申し訳ないのですけれども、今日は本当に貴重な意見をたくさんいただきましたので、これを次の計画に反映させていきたいと思います。</p> <p>また、次は10人というイメージで持っていますが、この中からまた引き続きお願いする方が出てくると思いますので、その方々については、またこちらからお声がけさせていただきますが、ぜひ、ご協力いただければと思います。</p> <p>あと、これは突然振るのですけれども、うちの職員の黒崎が長い間食育担当でやってきましたが、役所生活が今年度で一応区切りということになっておりますので、一言、どうぞ。</p>
事務局	<p>突然振られて驚いています。</p> <p>平成18年から、行ったり来たりはしましたけれども、食育という分野に足を踏み込みまして10年以上、いろいろな形でかかわらせていただきました。今回、満60歳を迎え、今年度で終了になりますけれども、この会議も今回が最後と思って、本当に皆さんの顔一人一人を見ながら、この土曜日でも日曜日でも、今日は頑張ろうと思って過ごしてきた次第です。</p> <p>本当に最後、皆様からお心のある一言一言をいただきまして、大変感動しております。次期、第4次食育推進計画に私は直接かかわることはできませんけれども、来年度、その第1のステップに向けて、次の方が気持ちよく進んでい</p>

	<p>けるように、私のできることを続けていきたいと思います。</p> <p>2期以上、こちらの会議でご意見を頂戴した方がたくさんいらっしゃいますけれども、どうもありがとうございました。この場をお借りして本当に申し訳ありません。失礼いたします。</p>
事務局	最後に、事務局から連絡をお願いします。
司 会	<p>本当に皆さんからいろいろな視点からいろいろな意見をいただきまして、貴重な時間、また皆さん時間を気にして4時ごろということで締めていただきますのもありがたいことです。</p> <p>事務局から連絡事項を三つほどさせていただきます。まず、1点目です。昨年度から会議の形式をこの場のような参集会議を1回、あとは年度末にその年度の事業報告ということで、書類を皆様に郵送させていただきます。報告を1回という、計2回にさせていただいています。今年度においても同じようにもう一回、書類を皆様に報告させていただきますので、届いたときにはその中身を見ていただきまして、また意見等がありましたら、メールでも電話でもファックスでも何でもけっこうですので、いただければと思います。</p> <p>2点目です。今会議の報酬ですけれども、8月26日月曜日、物入りのお盆までに間に合わないのが申し訳ありませんけれども、お盆を過ぎた26日に口座に振り込ませていただく予定ですので、よろしくをお願いします。</p> <p>3点目、最後ですが、今日、車でいらっしゃった方の駐車券なのですが、入り口の受付に置いておりますので、忘れずにお持ち帰りください。</p> <p>では、以上をもちまして、食育推進会議を終了いたします。お忙しいところ、本当にありがとうございました。</p>